

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Values include 0193600665, 株式会社 健康会, グループホーム澄川, 苫小牧市澄川町3-2-5, 2023年02月26日, 2023年4月25日.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [https://www.kajgokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kihon=true&Jiv.ogyoCd=0193600665-00&ServiceCd=320](https://www.kajgokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&Jiv.ogyoCd=0193600665-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Values include 企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部, 札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階, 令和5年03月27日.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節を感じて頂けるよう季節の行事に力を入れ一緒に装飾を作成し飾りつけをしたり行事を企画し職員と入居者様が楽しく落ち着いた環境で居心地よく生活を送れるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、苫小牧市の西方向に位置し、道央道苫小牧西インターが最寄り、交通の便がよい住宅地にあり、2階建て2ユニットのグループホームである。近隣には、公園やショッピングセンターなどがあり、利便性のよい地区である。法人は、医療法人を母体として、旭川市を中心に札幌や苫小牧・室蘭、首都圏に高齢者施設や認知症高齢者グループホーム、訪問看護、訪問介護、通所介護など幅広い介護サービスを運営しており、特に医療法人が母体の為、24時間体制の医療連携を構築しており、地域からの信頼も厚い。2020年7月1日にオープンしたが、コロナウイルス感染症対策により、認知症高齢者グループホームの対外的な活動が殆ど出来ないままに至っている。今後は、認知症高齢者の介護事業所として、本来目指しているケアを推進し、地域との関わりを構築していくことに期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取組の成果 (該当するものに○印), 項目, 取組の成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をサービス提供の基本方針としてフロアの目につく場所に掲示し意識して実践に努めている。	事業所の理念を食堂に掲示し、いつでも職員が見ることができ、理念を意識できるような環境作りをしている。また、利用者や家族にも周知しており、理念を共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染防止の為に交流することができていない。	コロナ禍により、地域と十分な関わりを持っていないが、町内会に加入し、近隣の住民との関わりを日常的に行っている。	コロナ禍により進められていないが、感染症の終息後は、災害対策を含めて、地域との関わりを積極的に進めることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為にやっていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている	会議の内容は閲覧できているのでサービスの向上に活かされている。	コロナ禍により、職員のみ参加する形で書面での運営推進会議を定期的開催している。運営や入居の状況、行事や事故報告などを議事録として作成している。	書面開催の内容を家族へ伝えることができていないため、今後は家族へも議事録を送付すること。また、感染症の終息後は、外出支援も含めて家族の意見を聞き取り、サービス向上に活かせるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が日頃から密に連絡を取っており協力関係ができています。	苫小牧市の担当者と直接やり取りをして、事業所の空き状況や待機状況等を報告している。事業所の実情を伝えながら、担当者との協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間のみ玄関の施錠はしている。会社全体でも身体拘束について学習する機会を設けている。	身体拘束適正化委員会を設置して、3ヶ月に1度、身体拘束に関する検討会を行っている。また、毎月開催の事業所会議にて、身体拘束に関する研修を実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に職員が虐待防止リストを記入し確認することで虐待防止に努めている。委員会での勉強会、研修も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実施されていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必要事項の説明を行い、理解、納得していただけるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で面会ができていない為ご家族には電話連絡時に報告に加え意見や要望等を尋ねている。入居者様には日々の会話の中で要望等を聞き支援に反映させている。	ホーム便りを毎月発行して、運営状況を家族に報告している。玄関に意見箱を設置しているが、家族からの意見や要望は、電話で聞き取り、伺った内容を連絡ノートに記載し職員周知を行うことで運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム内は日常的に発言しやすい環境にあり申し送り時やカンファレンス時などにも意見を出し合い支援に反映させている。	職員の意見は、日々の業務の中で聞き取ったり、毎月の事業所会議で報告するようにしている。管理者による個人面談は、全職員を対象に、毎月15分程度、定期的を実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	改善、整備に努めており、その案内をしている。不明な点は都度説明をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら知識や技術を学べる環境となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	文書等を通じて最低限の交流は行っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の不安や要望等を傾聴し誠実丁寧な対応と説明をすることで安心し信頼して頂ける関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や面談時には困っていることや不安、要望等を伺い質問があれば納得がいくよう説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活面、経済面、健康面等の状況を把握し本人に適したサービス利用ができるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	無理強いすることなく自発的に継続できるお手伝いを提供し参加して頂いている。ご本人のやりがいを極力引き出す努力をしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話、お手紙等で近況報告をし生活の様子本人の思い等を把握して頂き無理のない程度に支えて頂けるように協力頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により実現できていない。	コロナ禍により実現できていないことがあるが、キーパーソン以外の方との手紙のやり取りや、訪問理美容業者が定期的に入るなど、馴染みの人との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係性を配慮しながら食席の位置を決めたり一人一人に役割が持てるように支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じご家族様からホームに連絡が来ることもある。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の希望や思いを傾聴し意向に添える様に努めている。困難な場合にはご家族様に協力を得ながら本人本位に検討している。	日常のケアの中で、何気ない会話をして利用者の意向を確認し、思いや意向を把握するよう努めている。また、自身の意向を表出できない方は、家族に確認し本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、生活スタイル、居住地等理解した上でご本人と話すことを配慮している。 ご家族へ聞き取りしたりアセスメントシートに記入してもらうなど情報収集し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の心身状態を把握し職員間で情報共有し記録に記入するして現状把握に努めている。毎日のバイタル測定、食事や水分量、排尿排便のチェック等で健康状態を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、ご家族様からの情報や意向を取り入れ心身の状態、生活の様子等をアセスメントし検討した上で現状に即した計画を作成している。	利用者毎の2名の担当者が交互に毎月モニタリングを行い、それらを基に3ヶ月毎にカンファレンスを行っている。また、作成担当者が関係者全員から意見等の情報収集を行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に実践気づき等を記入し職員同士で情報を共有している。介護計画の経過も記録し評価見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人に合ったサービスの提供を心掛け柔軟性を持って個々の希望に沿ったサービスの提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により地域の行事参加や馴染みの場所での交流が実現できていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との定期的な往診や受診、急変時の夜間の対応等医療連携に取り組んでいる。	契約時にかかりつけ医についての説明をし、月2回の往診が受けられている。本人及び家族の希望により元々のかかりつけ医を継続するなど、本人及び家族の意向を尊重し、継続して医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の定期的な訪問により相談、アドバイス等で適切な受診、看護を受けられるよう対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には必要な情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に利用者、ご家族の意向を確認している。その後も必要時話し合い再確認している。	重度化や終末期についての対応は、入居契約時に説明し同意を得ている。重度化した場合は、主治医から家族へ説明し、改めて意向を確認するなど、チームで支援に取り組んでいる。看取りに関する研修は年2回定期的に行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練、勉強会は行っていない。全ての職員が実践力を見に付けている状態にはなっていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火避難訓練は定期的に行っている。地域の協力体制は不明。	火災の避難訓練は日中・夜間の年2回、地震と津波に関する避難訓練も実施している。また、備蓄や備品も整備して災害対策を行っているが、地域との協力体制はこれからである。	火災や地震、津波などの避難訓練は定期的に行っているが、BCPの作成とそれに基づく訓練の実施ができるよう期待したい。
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権を常に意識して適切な言葉遣いと対応に努めているが全職員が周知できている状態には至っていない。	接遇の研修会を定期的に行ったり、スピーチロックに関する勉強会を実施するなど、一人ひとりの人格を尊重した対応ができるよう事業所全体で取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が思いを表現できる、自己決定が出来る環境作りや言葉掛けを行っているが職員間の都合で決められていることも多い。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望に沿って支援している	一人一人のペースに合わせるよう心掛けてはいるが職員の都合で支援している場面も多々ある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を大切にし本人の好む服装や身だしなみができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の嗜好に合った料理や季節感のある食事が提供できるよう努めている。個々の力に応じた役割を持ち食事の準備や片付けを行い食事を楽しんでいる。	出来る利用者には、準備や片づけなどを手伝ってもらうなどの役割を担っていただいている。また、月に1度はフリー食の日を設け、利用者の希望を聞くなど、食事が楽しみになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に応じて形態や量を変え調理法にも配慮している。楽しく安全に食事ができるよう支援している。食事水分摂取量を都度把握し健康管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状態に応じた援助で起床時、食後、就寝時に口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の能力に応じた排泄支援を行い出来るだけ自立支援に向けて対応している。	排泄記録簿から利用者個々の排泄パターンを職員間で共有し、状況を見ながら声掛け誘導している。出来る限り、トイレでの排泄ができるよう自立した排泄に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の提供や水分チェック、食前体操、緩和作用の服用で調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	会社の指示により入浴日が設定され本人の希望やタイミングに沿った支援は行えない。	月曜日と木曜日に入浴する日を決めて入浴してもらっている。利用者のその時の状況に合わせて臨機応変に対応したり、入浴時には入浴剤を使うなど個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその時の状況に応じて居室やソファー等で寛いで休息を取れる環境を作っている。日中に活動の場を多く提供し夜間安眠の生活リズムが整うよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をすぐに確認できるようファイルし保管している。薬剤師と連携し服薬支援に努めている。間違いなく服薬できるように薬のセット時内服時などその都度2名での確認を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍により外出の機会が設けられないが一人一人の生活歴や力を活かした役割嗜好品楽しみ気分転換等の支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により実施できていない。	コロナ禍により、外出支援はほとんどできていないが、近隣の散歩や金太郎池へのドライブなど感染状況に合わせて外出している。感染状況が落ち着けば実行できるよう、次年度の外出行事の計画も立案している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム側で管理しており入居者様が所持したり使える状態にはなっていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話連絡は本人の希望に応じいつでも電話できるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快がないよう音量や障害物に配慮し季節を感じられるような物品やお花等配置し居心地良く過ごせるよう努めている。	リビングは広く、陽射しが入り採光や風通しがよく、利用者は寛いで過ごしている。通路の壁には、季節の飾り物や利用者の作品などが掲示され、行事の楽しそうな写真付きのホーム便りも掲示しており、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人の落ち着いた場所でテレビを見たり新聞を読む等、また気の合う仲間と談笑し寛いで過ごされている。状況に応じて座る場所等誘導し落ち着いて過ごせるよう気配りをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みや思入れのある家具や物を置きその人らしく安心して落ち着いて過ごせる居室作りをしている。その時の生活に応じた居室になるよう工夫している。	居室には、ベッドと収納が備え付けられているが、その方の馴染みの家具や思入れのある物を持参できるようにしており、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、自室入り口等にはお名前や目印を表示し混乱のないよう工夫している。日時がわかるようにカレンダーや時計をたくさん設置している。		